

ー勤労青少年を取り巻く現状についてー

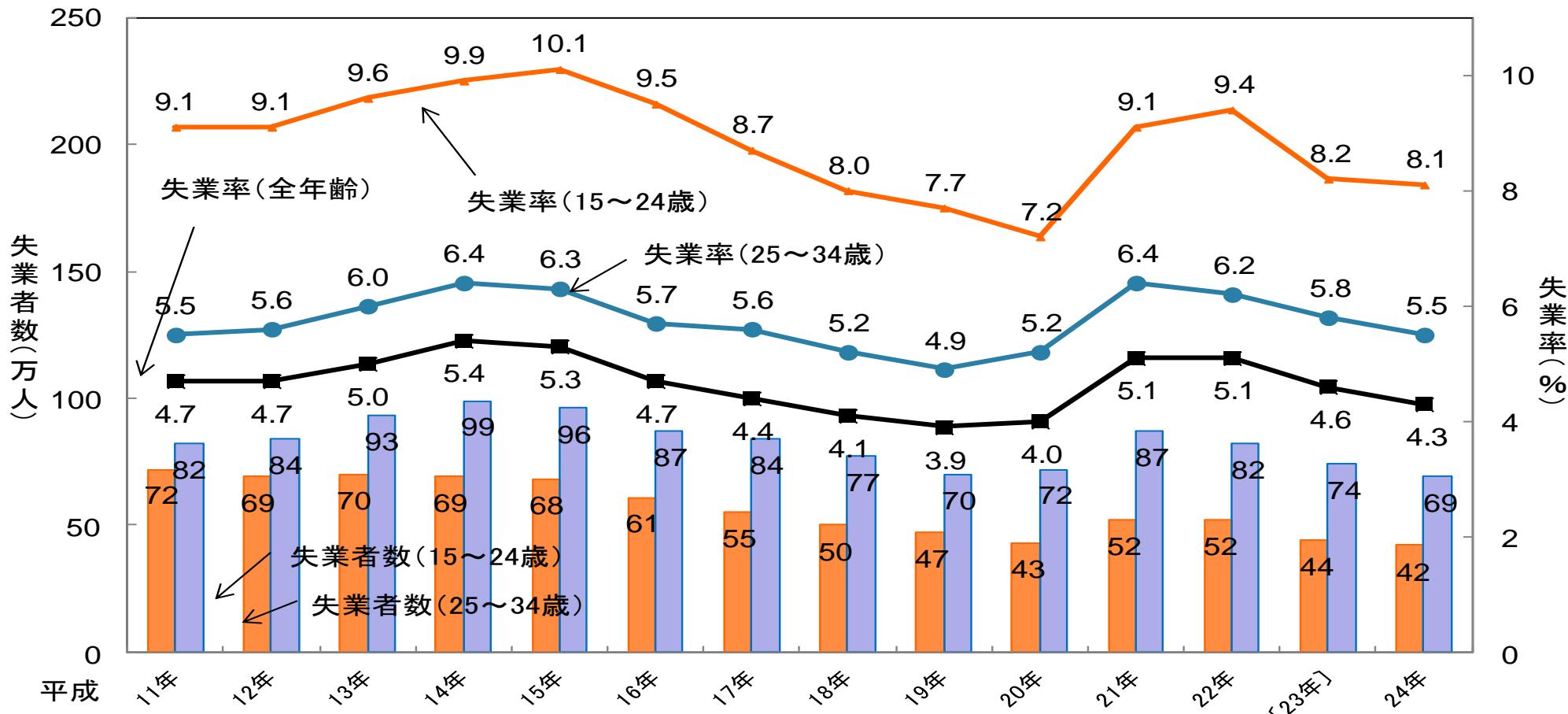
平成25年3月25日



厚生労働省 職業能力開発局 キャリア形成支援室

若年者の完全失業率・完全失業者数の推移

- 24歳以下の若年者の完全失業率は、平成15年以降5年連続で改善していたものの、平成21年に悪化したが、平成24年には8.1%と前年より0.1ポイント改善。
- 25～34歳層については、平成24年は5.5%と前年より0.3ポイント改善。



(資料出所) 総務省統計局「労働力調査」(基本集計)

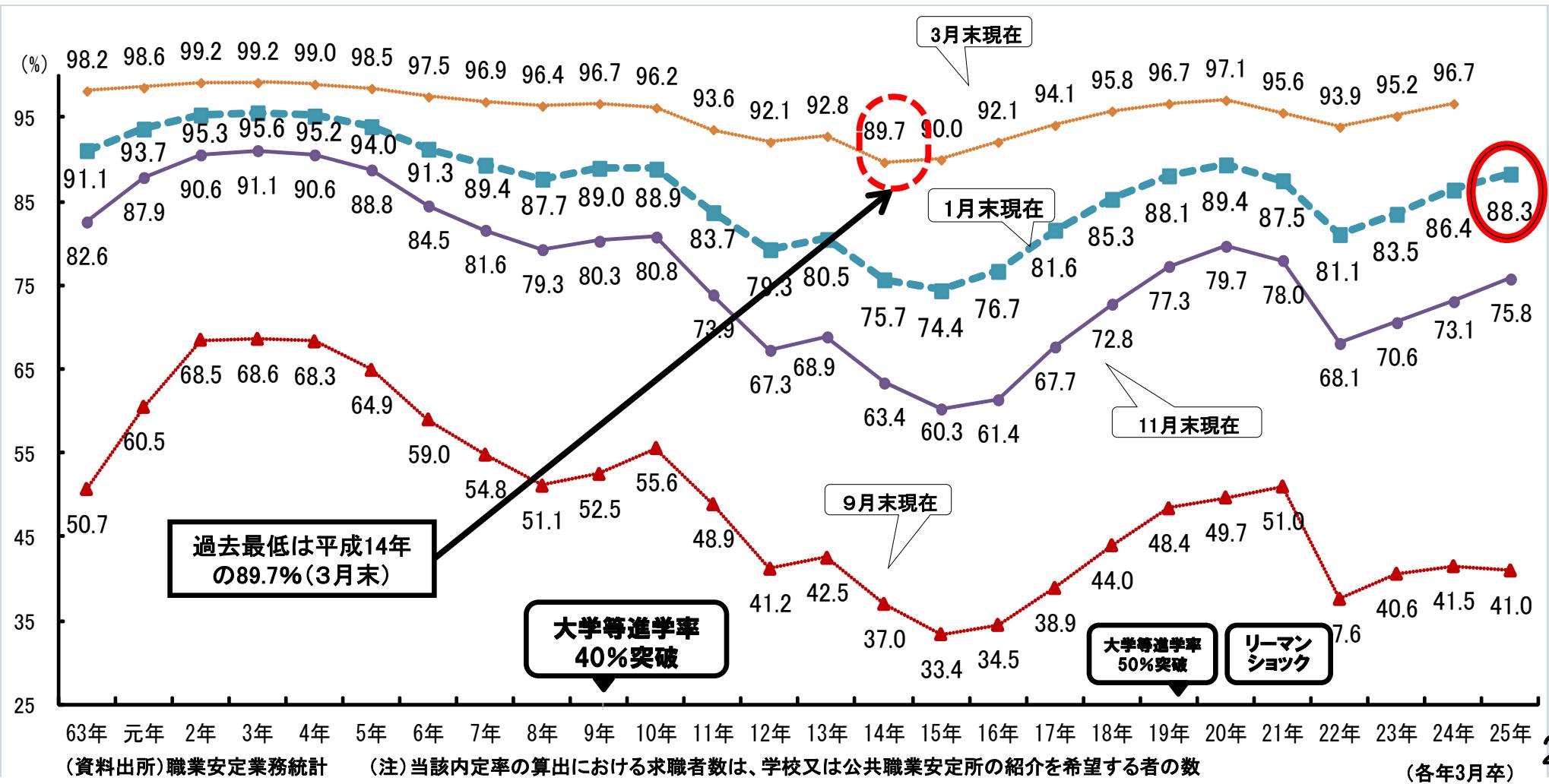
(注1) 完全失業率、完全失業者数は年平均。

(注2) []付した平成23年の数値は、東日本大震災により調査が困難となった3月から8月までを補完推計した参考値について、

平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値。

新規高校卒業者の内定率の推移

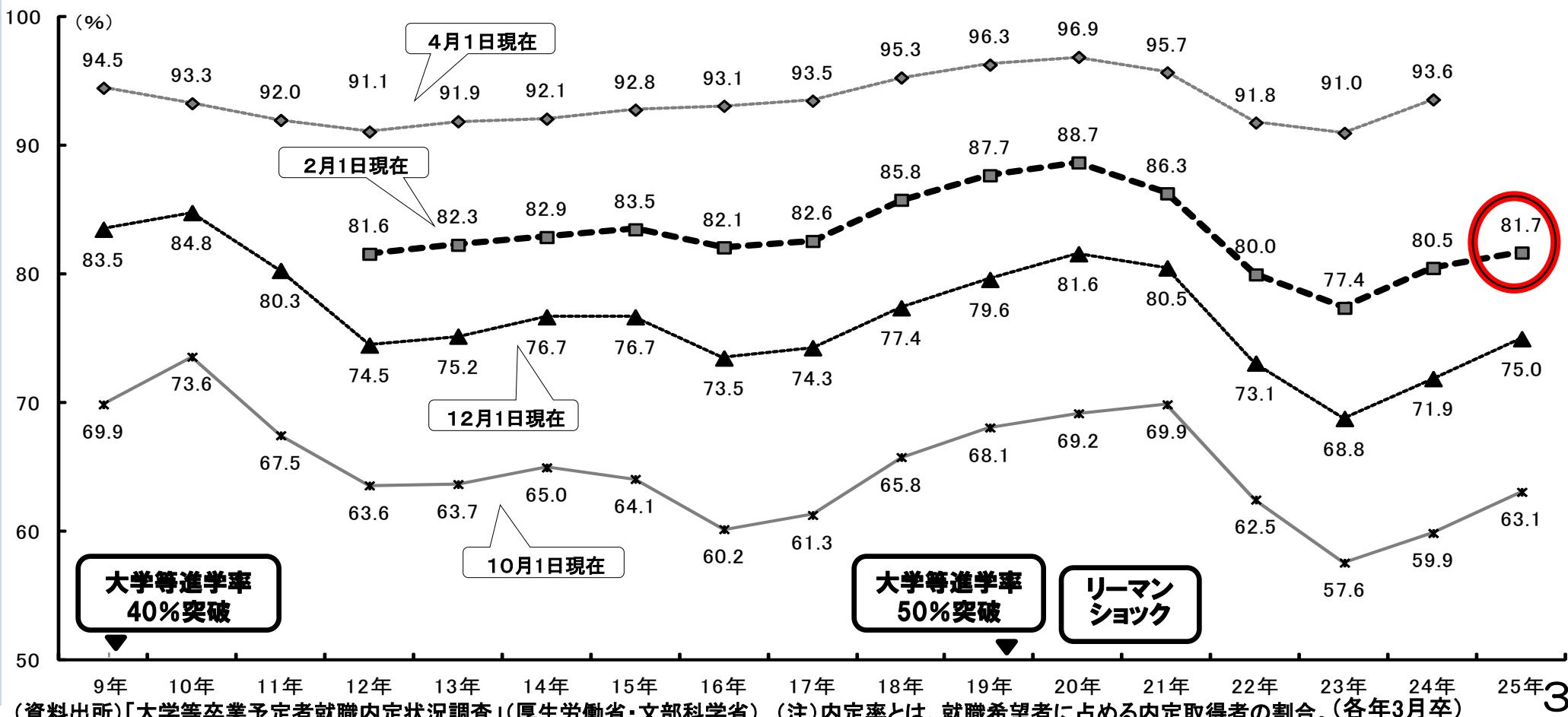
- 平成25年3月卒業の新規高卒者の内定率(平成25年1月末現在)は前年同期を上回る水準となっているものの、新規高校卒業者をとりまく就職環境は依然として厳しい状況である。
 - ・ 就職内定率は88.3% …… 前年同期差は1.9ポイント増。
 - ・ 就職内定者数は15万1千人・前年同期比5.3%増



新規大学卒業者の就職状況の推移

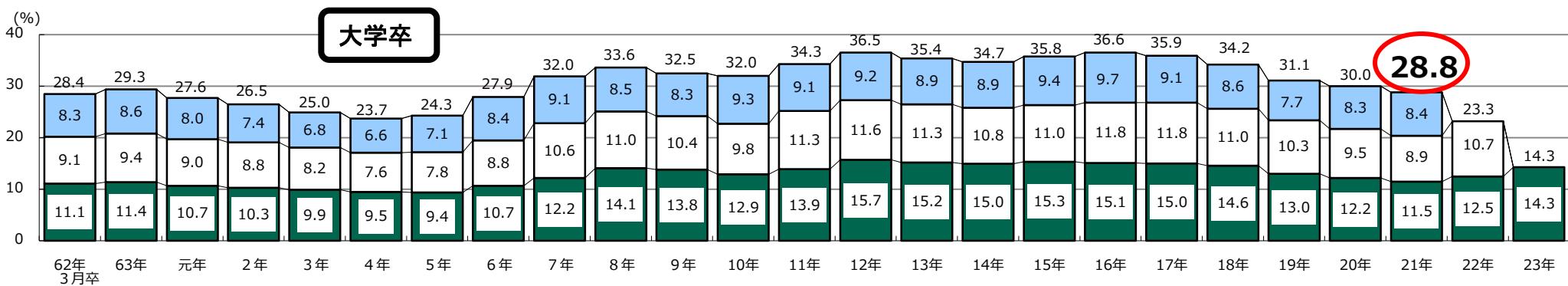
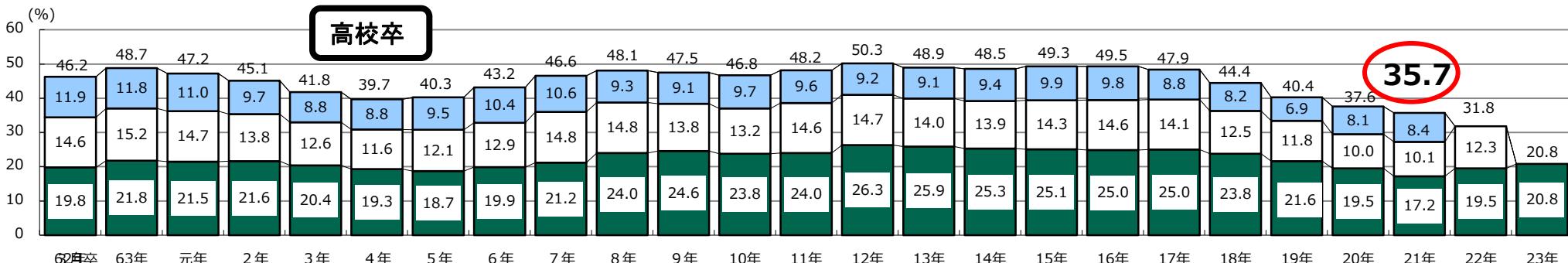
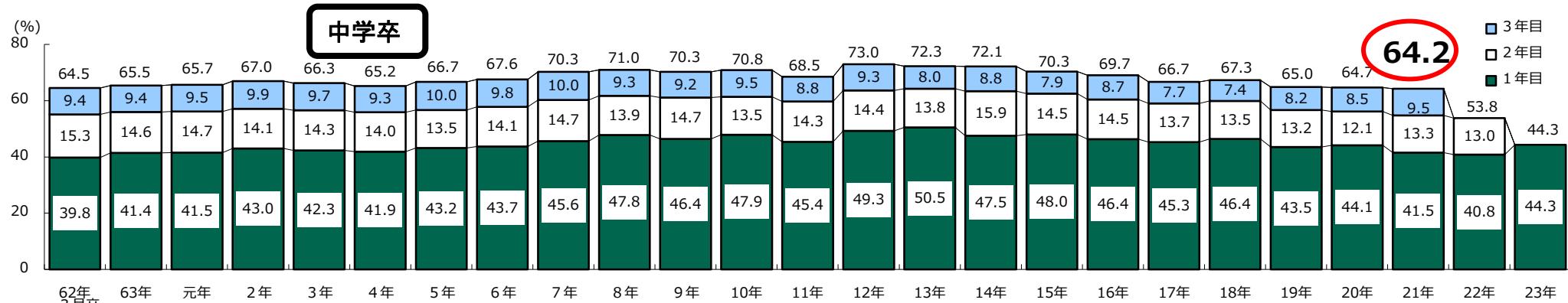
- 平成25年3月卒業の新規大卒者の就職内定率(平成25年2月1日現在)は、前年同期を上回る水準となっているものの、過去5番目に低い水準となっており、新規大卒者をとりまく就職環境は依然として厳しい状況である。
- ・ 就職内定率は81.7%…… 前年同期差は1.2ポイント増。
 - ・ 就職内定者数は34万人… 前年同期比4.2%増

※ 文部科学省「学校基本調査」から推計した卒業予定者数に本調査結果(就職希望率、就職内定率)を乗じて推計した数値



卒業後3年以内の離職率

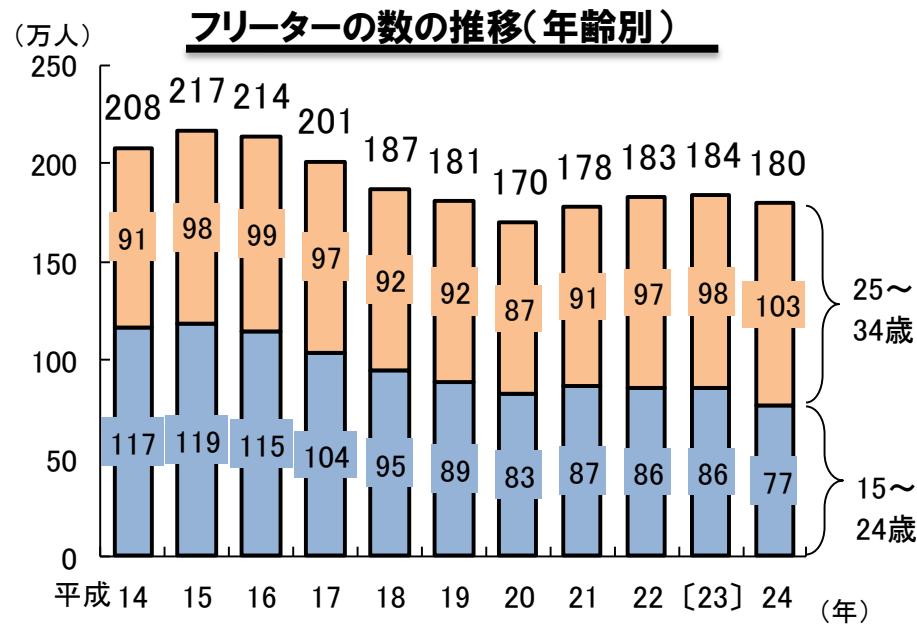
- 卒業後3年以内に離職する者の割合は、中学卒で約6割、高校卒で約4割、大学卒で約3割となっており、いずれも高水準で推移している。特に1年以内の離職率が高くなっている。



フリーター・ニートの推移

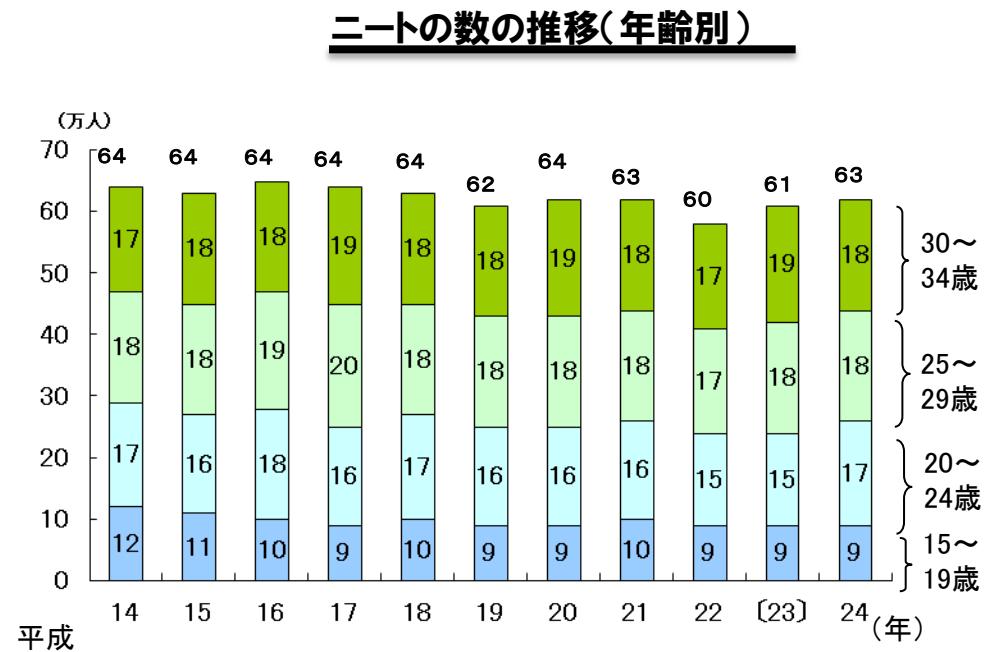
フリーター数は、平成24年で180万人

- フリーター数は217万人(平成15年)をピークに5年連続で減少した後、3年連続で増加し、平成23年には184万人となつた。平成24年は180万人と、前年差4万人の減少。



ニート数は、平成24年で63万人

- ニート数は、平成14年以降、60万人台で推移。



資料出所：総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」

(注1) フリーターの定義は、15～34歳で、男性は卒業者、女性は卒業者で未婚の者のうち、以下の者の合計。

- 1 雇用者のうち「パート・アルバイト」の者
- 2 完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者
- 3 非労働力人口で、家事も通学もしていない「その他」の者のうち、就業内定しておらず、希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」の者

(注2)[]を付した平成23年の数値は、東日本大震災により調査が困難となった3月から8月までを補完推計した参考値について、平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値。

資料出所：総務省統計局「労働力調査(基本集計)」

(注1) 「ニート」の定義は、15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者。

(注2) []を付した平成23年の数値は、東日本大震災により調査が困難となった3月から8月までを補完推計した参考値について、平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値。